

2020年度

保育科の教育活動に関するアンケート

(卒業年次アンケート 分析結果)

1. 授業（学修）に関すること

新型コロナウイルス感染症の拡大防止策により、本年度の授業はすべて遠隔授業となった。このような状況においても、本学で開講している科目数や種類（Q6）に対する満足度は、5点満点中4.17点と比較的高く、「やや不満」や「不満」と回答した学生はいなかった。一方、授業の時間帯や1週間の時間割の密度（Q7）に対する満足度は低く、2年間の保育者養成校ならではの過密さを感じていた様子がうかがえた。

印象に残っている科目（Q8）について尋ねると、身体・造形・音楽などの「表現」が最も多く挙げられた。これは、本学の独自性の一つである「表現力」に関する学修の効果を示すものでもある。その一方、学修を深めたかった事項（Q9）としては、運動会や焼き芋などの「実践的な活動」やオムツ替えなどの実技を含む「乳児保育」が多かった。

授業に関する総合的な満足度（Q11）は、5点満点中4.02点と比較的高かったが、不満に感じている学生も全体の5%程度見られた。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う遠隔授業の実施に由来すると思われる。実際、学生の要望（Q31）としても「週1回でも対面授業をしたかった」や「半分がオンラインになってしまったことが悔しい」という意見が挙げられている。

2. 学生生活に関すること

(1) 教職員の学生対応やクラス制、友人関係に関すること

教職員の学生対応（Q15, Q16, Q17）に対する満足度は、5点満点中4.20点以上と高く、学生と教職員との良好な関係性をうかがい知ることができた。同様に、クラス制（担任：Q15, クラス編成：Q14）に対する満足度も高かった。教職員と学生との関係性やクラス制への満足度は、後述する「コマジョらしさ」の一つとしても挙げられている（「4. 総合的な振り返り」を参照）。

この傾向は友人関係（Q13）においても同様であり、「満足」または「やや満足」と答えた学生が55名（95%）であり、「やや不満」や「不満」と回答した学生は一人もいなかった。

(2) 施設や設備に関すること

学生食堂や図書館、授業時間外の居場所、バスなど、施設・設備に関する満足度も比較的良好であった。ただし、土曜日に食堂が営業していないことへの不満や、ATM設置の要望（Q31）が挙げられている。

3. 就職支援に関すること

先述の通り、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、就職ガイダンスやセミナーなどの就職支援もオンライン開催となった。そのため、半数以上の学生が参加できず、その満足度も低かった（Q2

8)。その反面、進路総合センターの職員による履歴書添削などを個別に実施した。その甲斐もあり、進路総合センターの就職指導に対する満足感は5点満点中4.22点と高かった。

4. 総合的に振り返って

Q30では、これまでの授業や学生生活などを振り返り、学生が抱く「コマジヨらしさ」とは何かを尋ねた。その結果、教員や友人との距離の近さや、明るくアットホームな雰囲気などの「人間関係の良さ」が最も多く挙げられた。次には、遊びや表現、礼儀やマナー、仏教など、本学のディプロマ・ポリシーや建学の精神に関連したものが多かった。

Q29では、授業や学校生活に対する2年間の総合的な満足度を尋ねた。その結果、43名（有効回答者の74%）の学生が、「満足」もしくは「やや満足」と答えた（5点満点中4.03点）。

良好な人間関係を土台としながら、「遊び」や「表現」などをキーワードとした学びを提供しているのが本学独自の教育活動である。引き続き、感染拡大防止策を講じながらも、よりよい教育活動を展開できるように努めてまいります。